

## 佐藤 有

[真誠会]



- ①農地の放射性物質の除去と住宅、神社仏閣除染について
- ②トップアスリート事業の成果と目標について

### 問

- ①農地における放射性物質の除去と低減化技術の研究開発についての取り組みは。住宅除染での除染物質の保管を複数戸での仮置場設置に対する支援はあるのか。また地域内の神社や仏閣、公園などの除染は。
- ②トップアスリート選手育成事業として実施されたが、その成果について。また、この事業の最大の目標について何う。

### 答

- ①農地の放射性物質の低減化技術と研究開発は、民間での実証試験の成果を含め県、国がその効果を検証し対策する。住宅除染の除去土壌は、基本的に現場保管であるが、地域単位であれば、市が設置、管理する。神社仏閣等はその後実施する。
- ②世界で活躍できる人づくり、活力ある本市創出を図るため、川本和久福大教授による講習・指導を行った。県・東北・全国大会、オリンピック、世界選手権に出場できる選手育成を目指す。

## 平栗 征雄

[市政刷新会議]



- ①二本松市における除染について
- ②根崎・野辺線（市道）の歩道改良について

### 問

- ①①仕事を始める前に当該地域の行政区長等への周知は。
- ②住宅から20m範囲の森林除染は今までの方法で良いのか。



根崎・野辺線の狭い歩道

- ②歩道幅が狭く段差があり、すれ違うには、一方が車道に下りねばならない。歩道改良について何う。

### 答

- ①①支所、住民センターとも連絡を密にし、情報提供に努めていく。
- ②伐採は行わないことになっているが、住民への放射線の影響を防止することを優先するので、伐採等を含めた除染手法についても、国・県と協議していく。
- ②この道路は、北小学校や油井小学校等の通学路にもなっているため、歩道の拡幅も視野に入れ、今後、市の長期総合計画に位置づけていきたいと考えている。

## 安部 匡俊

[あぶくま会]



- ①今後の住宅団地の計画について
- ②健康づくりの推進について

### 問

- ①杉田駅周辺の開発計画と安達駅周辺の開発計画の中で、住宅団地に関わる計画について
- ②本市の平均寿命と健康寿命は。また、「ガン施設検診の充実」事業の内容と、集団検診と特定健康検診の受診率は。

### 答

- ①杉田駅周辺は、基盤となる道路は市が先行的に整備する。住宅団地は民間の誘導を図る。安達駅周辺は、26年度から南北線等の道路工事に入り、併せて民間による住宅団地の計画が促進される見込み。
- ②直近の平均寿命は、平成17年で男性78歳、女性85.4歳。健康寿命はまだプログラムがないため算定できない。胃・肺・大腸・前立腺等がんの検診を、管内医療機関で開始する。特定健康診査の受診率は40歳～75歳未満は38.8%。

## 高橋正弘

[あぶくま会]



- ①一般住宅、市営住宅の除染について
- ②有害鳥獣対策について

### 問

- ①①24年度住宅除染の実施状況は。発注しても3月で完了しない戸数は。
- ②地区単位、行政区単位での除染を図るべきでないか。
- ②①24年度の捕獲頭数は。
- ②防止柵等の設置は地区内、地域内で取組めないか。



イノシシ対策に設置された電気柵

### 答

- ①①24年度の住宅除染完了は、2月現在で1,748世帯である。3月で完了しない一般住宅が2,400世帯、集合住宅477棟分である。
- ②今後の除染は、放射線量の比較的高い地域から地区ごとに実施することで計画している。
- ②①イノシシ226頭、熊6頭、ハクビシン88頭である。
- ②地域ぐるみ、広域連携が効果的と考えており市有害鳥獣対策協議会、県組織との協議をすすめ促進する。

## 中田涼介

[真誠会]



- ①本市の情報管理と市民への広報伝達の基本姿勢について
- ②福祉センター駐車場整備に伴う現利用者への配慮について

### 問

- ①地域社会での最高の情報収集機関は地元自治体である。災害の様な非常時には、住民の生存権にも直接に関わることになる。情報の開示について、市民の知る権利への許容も含め本市の基本的姿勢は。
- ②市は福祉センター駐車場の整備方針を示し新年度予算計上をしている。開発にあたっては、現在同グラウンドを利用しているグラウンドゴルフ等の愛好者も含め、現利用者への十分な配慮が必要ではないか。

### 答

- ①災害時には、住民情報・安否確認が最重要情報となる。人の生命・身体・財産を保護するため緊急やむを得ない場合はプライバシーに配慮のうえ、災害時の迅速な情報伝達・収集に努める。
- ②隣接する運動場を車70台ほどが駐車できる駐車場にする。現在、同グラウンドを利用しているグラウンドゴルフ等の愛好者については、代替施設を使用してもらうよう理解を求めていく。

## 佐藤源市

[あぶくま会]



- ①地域防災の取組みについて
- ②小中学校における放射線対策について

### 問

- ①①全国瞬時警報システム（Jアラート）の稼働状況及び自動起動装置の設置について
- ②消防団組織強化策及び訓練諸大会費用負担について。
- ②学校給食の現状と放射線対策について



食品放射能測定システム

### 答

- ①①各種気象・災害・有事関連情報を受信している。今後整備予定の自動起動機により、エリアメールとして同時に一括送信し、市民へ迅速な情報伝達が可能となる。
- ②分団活動に必要な経費は予算措置をしていく。女性防火クラブは自主防災組織として重要であり、25年度に法被を支給する。
- ②昨年12月より市内産米を給食に使用し、ごはん持参率は35%である。今後も検査体制の充実を図り、安全安心な給食提供に努めていく。